

平成 14 年度 宮崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

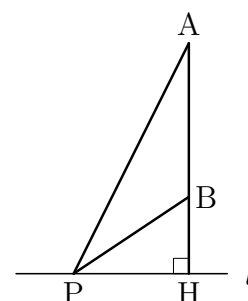
工・教育文化・農学部 平成 14 年 2 月 25 日

- 工学部は, [1] ~ [4] 必答, [5] ~ [7] から 1 題選択. 数 II・III・B(120 分)
- 教育文化 (中学 [理系], 生活文化 [生活環境コース]) 学部は, [2], [8] 必答, [5] ~ [7] から 1 題選択. 数 II・B (90 分)
- 教育文化 (初等教育コース, 中学 [文系], 障害児コース) 学部・農 (食料生産科学・地域農業システム・獣医) 学部は, [2], [9] 必答, [10] ~ [12] から 1 題選択. 数 II・A (90 分)

- [1] 右図のように, 直線 l 上にない点 A , $AH \perp l$ となる l 上の点 H , 線分 AH 上の点 B をとる. 点 P は直線 l 上を点 H から左へ動くものとする.

$$AH = a, \quad BH = b \quad (a > b > 0),$$

$$PH = x \quad (x > 0), \quad \angle APB = \theta$$



とおくとき, 次の問に答えよ.

- (1) $\tan \theta$ を a, b, x を用いて表せ.
- (2) θ が最大となる x を a, b を用いて表せ. ただし, 正の数 p, q に対して

$$\frac{p+q}{2} \geq \sqrt{pq} \quad (\text{等号成り立つのは } p = q \text{ のときに限る})$$

が成り立つことを用いてもよい.

- [2] 座標平面上の原点を中心とする半径 1 の円 C と, 点 $A(1, 2)$ について, 次の各問に答えよ.

- (1) 点 A を通る円 C の接線の方程式を求めよ.
- (2) 点 A と円 C 上の点 $P(a, b)$ を $m : 1$ に内分する点を $Q(x, y)$ とするとき, 次の (A), (B) に答えよ. ただし, $m > 0$ とする.
 - (A) 点 P が円 C 上を動くとき, 点 Q の軌跡の方程式を求めよ.
 - (B) (A) で求めた軌跡と円 C の共有点がただ一つとなるとき, m の値を求めよ.

- 3 曲線 $y = \sin x$ ($0 \leq x \leq 2\pi$) 上に 2 点 $A\left(\frac{\pi}{2}, 1\right)$, $B\left(\frac{\pi}{2} + a, \sin\left(\frac{\pi}{2} + a\right)\right)$ をとる. 2 点 A, B を通る直線の傾きを $g(a)$ とするとき, 次の各問に答えよ. ただし, $0 < a \leq \frac{3}{2}\pi$ とする.

- (1) $g(a)$ を a を用いて表せ.
- (2) $\lim_{a \rightarrow 0} g(a) = 0$ であることを示せ.
- (3) $a = \pi$ のとき, 線分 AB と曲線 $y = \sin x$ で囲まれる部分の面積を求めよ.

- 4 次の各問に答えよ.

- (1) $x \geq 0$ のとき, 次の不等式を示せ. ただし, $\log x$ は x の自然数を表す.

$$x - \frac{1}{2}x^2 \leq \log(x+1) \leq x$$

- (2) 極限值 $\lim_{x \rightarrow +0} \frac{1}{x^3} \int_0^x t \log(t+1) dt$ を求めよ. ただし, $x \rightarrow +0$ は, x が 0 より大きい値をとりながら 0 に近づくことを表す.

- 5 座標平面上に原点 O と, 異なる 2 点 A, B をとる. 線分 AB を $p:1-p$ ($0 < p < 1$) に内分する点を C とする. ベクトル $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}$ をそれぞれ \vec{a}, \vec{b} とするとき, 次の各問に答えよ. ただし, 原点 O は直線 AB 上にはないものとする.

- (1) ベクトル \overrightarrow{OC} を p, \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ.
- (2) $OC \perp AB$ であるとき,

$$p = \frac{|\vec{a}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a} - \vec{b}|^2}$$

が成り立つことを示せ. ただし, $\vec{a} \cdot \vec{b}$ はベクトル \vec{a}, \vec{b} の内積を表す.

- (3) 2 点 A, B の座標をそれぞれ $(t, 0), (1, 3)$ とし, $p = \frac{1}{3}$ とする. さらに, $OC \perp AB$ となるとき, t の値を求めよ.

6 2つの複素数は α, β は

$$|\alpha| = 1, \quad |\beta| = \sqrt{10}, \quad \frac{\beta}{\alpha} = 3 + i$$

を満たしているとする． $\theta = \arg \frac{\beta}{\alpha}$ ($0^\circ < \theta < 90^\circ$) とおくとき，次の各問に答えよ．

- (1) 複素数 α^2, β^2 を表す複素数平面上の点をそれぞれ P, Q とし原点を O とするとき， $\triangle POQ$ の面積を求めよ．
- (2) $30^\circ < 2\theta < 45^\circ$ であることを示せ．
- (3) $n\theta > 90^\circ$ となる最小の自然数 n を求めよ．

7 1から8までの番号をつけた8枚のカードの中から4枚を抜き取る．抜き取ったカードのうち，2番目に小さい番号を X とする．このとき，次の各問に答えよ．

- (1) $X = 2$ となる確率を求めよ．
- (2) $X = k$ となる確率が最大となるような k の値を求めよ．
- (3) X の期待値を求めよ．

8 曲線 $C: y = 2x - x^2$ および，直線 $l: y = ax$ ($0 < a \leq 2$) が与えられている． $y \geq 0$ において，直線 l の下側 ($y \leq ax$) であり，かつ曲線 C の下側 ($y \leq 2x - x^2$) の部分の面積を S_1 とする．また， $0 \leq x \leq 2$ において，直線 l の下側であり，かつ曲線 C の上側 ($y \geq 2x - x^2$) の部分の面積を S_2 とする．このとき，次の各問に答えよ．

- (1) S_1, S_2 を a を用いて表せ．
- (2) $S = S_1 - S_2$ とおくとき， S の最大値とそのときの a の値を求めよ．

9 次の各問に答えよ．

- (1) $m > 0, m \neq 1$ のとき，正の数 p に対して， $p = m^q$ となる q を $\log_m p$ と表す．このとき，等式

$$\log_b c = \frac{\log_a c}{\log_a b}$$

が成り立つことを示せ．ただし， $a > 0, a \neq 1, b > 0, b \neq 1, c > 0$ とする．

- (2) 次の不等式を解け．

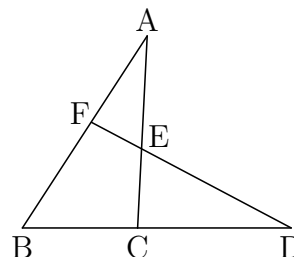
$$\log_2 x - \log_{\frac{1}{2}}(4 - x) < 1$$

10 x, y を実数とするとき, 下の命題 P について, 次の各問に答えよ.

命題 P 「 $x + y$ が有理数であり, かつ xy が有理数であるならば, x が有理数であるか. または y が有理数である。」

- (1) 命題 P の対偶を求めよ.
- (2) 命題 P が真であれば証明し, 偽であれば反例をあげよ.

11 右図のように, $\triangle ABC$ の辺 BC の延長上の点 D を通る直線と辺 AB, AC との交点をそれぞれ F, E とする. $AB = 6, BC = 3, CD = 4, AC = 5$ とする. $AE = a, AF = b$ とおくととき, 次の各問に答えよ. ただし, $0 < a < 5, 0 < b < 6$ とする.



- (1) a と b の関係式を求めよ.
- (2) 4点 B, C, E, F が同一円周上にあるとき, a の値を求めよ.

12 自然数 1, 2, 3, ... を右図のように並べていくとき, 次の各問に答えよ.

- (1) 左から m 番目, 上から m 番目の位置にある自然数を m を用いて表せ.
- (2) 90 は左から何番目, 上から何番目の位置にあるか.
- (3) 自然数 n を

1	2	5	10	17	
4	3	6	11	18	
9	8	7	12		
16	15	14	13		

$$n = k^2 + l \quad (k \text{ は負でない整数}, 1 \leq l \leq 2k + 1)$$

と表すとき, n は左から何番目, 上から何番目の位置にあるか, k, l を用いて表せ.

正解

1 (1) $\alpha = \angle APH$, $\beta = \angle BPH$ とおくと $\tan \alpha = \frac{a}{x}$, $\tan \beta = \frac{b}{x}$

$$\theta = \alpha - \beta \text{ より } \tan \theta = \tan(\alpha - \beta) = \frac{\tan \alpha - \tan \beta}{1 + \tan \alpha \tan \beta}$$

$$= \frac{\frac{a}{x} - \frac{b}{x}}{1 + \frac{a}{x} \cdot \frac{b}{x}} = \frac{(a - b)x}{x^2 + ab}$$

(2) $x > 0$, $\frac{ab}{x} > 0$ であるから, 相加平均・相乗平均の関係により

$$x + \frac{ab}{x} \geq 2\sqrt{x \cdot \frac{ab}{x}} = 2\sqrt{ab}$$

$$a - b > 0 \text{ より } \tan \theta = \frac{(a - b)x}{x^2 + ab} = \frac{a - b}{x + \frac{ab}{x}} \leq \frac{a - b}{2\sqrt{ab}}$$

上式において, 等号が成立するのは, $x = \frac{ab}{x}$, すなわち $x = \sqrt{ab}$ のとき,

$\tan \theta$ は最大となり, θ もこのとき最大となる

よって $x = \sqrt{ab}$

2 (1) 接点を $B(p, q)$ とすると, C 上にあるから $p^2 + q^2 = 1$

B における C の接線 $px + qy = 1$ は, 点 $A(1, 2)$ を通るから $p + 2q = 1$

上の2式を解いて $(p, q) = (1, 0), \left(-\frac{3}{5}, \frac{4}{5}\right)$

よって, 求める接線の方程式は $x = 1, 3x - 4y + 5 = 0$

補足 連立方程式 $\begin{cases} p^2 + q^2 = 1 \\ p + 2q = 1 \end{cases}$ は, $C: x^2 + y^2 = 1$ と A における C の極線 $x + 2y = 1$ の交点を求めている (長崎大学 2012 年一般前期 [7] を参照¹).

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/kyusuu/nagasaki/nagasaki_2012.pdf

(2) (A) $P(a, b)$ は, $A(1, 2)$, $Q(x, y)$ を $m+1:1$ に外分する点であるから

$$a = \frac{-1 + (m+1)x}{m}, \quad b = \frac{-2 + (m+1)y}{m}$$

P は C 上を動くから

$$\left\{ \frac{-1 + (m+1)x}{m} \right\}^2 + \left\{ \frac{-2 + (m+1)y}{m} \right\}^2 = 1$$

$$\text{よって} \quad \left(x - \frac{1}{m+1} \right)^2 + \left(y - \frac{2}{m+1} \right)^2 = \left(\frac{m}{m+1} \right)^2 \quad \dots (*)$$

(B) (*) は, 中心 $\left(\frac{1}{m+1}, \frac{2}{m+1} \right)$, 半径 $\frac{m}{m+1}$ の円である.

(*) と C が接するのは, 中心間の距離が 2 円の半径の和または差に等しいときである.

半径の和に等しいとき

$$\sqrt{\left(\frac{1}{m+1} \right)^2 + \left(\frac{2}{m+2} \right)^2} = 1 + \frac{m}{m+1} = \frac{m+2}{m+1}$$

両辺を平方して整理すると $m^2 + m - 1 = 0$

$m > 0$ に注意して, これを解くと $\frac{-1 + \sqrt{5}}{2}$

半径の差に等しいとき

$$\sqrt{\left(\frac{1}{m+1} \right)^2 + \left(\frac{2}{m+2} \right)^2} = 1 - \frac{m}{m+1} = \frac{1}{m+1}$$

上式において, 左辺 $>$ 右辺 ゆえに, これをみたま m は存在しない.

$$\text{よって} \quad m = \frac{\sqrt{5} - 1}{2}$$

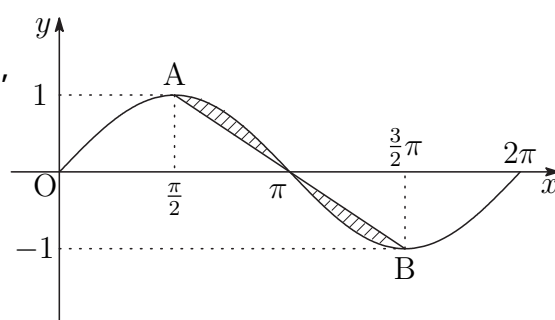
$$\boxed{3} \quad (1) \quad g(a) = \frac{\sin\left(\frac{\pi}{2} + a\right) - \sin\frac{\pi}{2}}{\left(\frac{\pi}{2} + a\right) - \frac{\pi}{2}} = \frac{\cos a - 1}{a}$$

(2) (1)の結果から

$$\begin{aligned} \lim_{a \rightarrow 0} g(a) &= \lim_{a \rightarrow 0} \frac{\cos a - 1}{a} = \lim_{a \rightarrow 0} \frac{(\cos a - 1)(\cos a + 1)}{a(\cos a + 1)} \\ &= \lim_{a \rightarrow 0} \frac{\sin a}{a} \left(-\frac{\sin a}{\cos a + 1} \right) = 1 \cdot 0 = 0 \end{aligned}$$

(3) $y = \sin x$ および直線 AB は、点 $(\pi, 0)$ に関して対称であるから、求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} \frac{S}{2} &= \int_{\frac{\pi}{2}}^{\pi} \sin x \, dx - \frac{1}{2} \left(\pi - \frac{\pi}{2} \right) \cdot 1 \\ &= \left[-\cos x \right]_{\frac{\pi}{2}}^{\pi} - \frac{\pi}{4} = 1 - \frac{\pi}{4} \end{aligned}$$



よって $S = 2 - \frac{\pi}{2}$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad t \geq 0 \text{ のとき, } 1 - t^2 \leq 1 \leq 1 + t \text{ であるから} \quad 1 - t \leq \frac{1}{1+t} \leq 1$$

$$x \geq 0 \text{ のとき} \quad \int_0^x (1-t) \, dt \leq \int_0^x \frac{dt}{1+t} \leq \int_0^x dt$$

$$\text{よって} \quad x - \frac{1}{2}x^2 \leq \log(x+1) \leq x$$

補足 $t > 0$ のとき, $1 - t < \frac{1}{1+t} < 1$ であるから, (1)の結果において, 等号が成立するのは, $x = 0$ のときである.

$$(2) \quad (1) \text{の結果から, } t \geq 0 \text{ のとき} \quad t^2 - \frac{1}{2}t^3 \leq t \log(t+1) \leq t^2$$

$$x > 0 \text{ のとき} \quad \frac{1}{x^3} \int_0^x \left(t^2 - \frac{1}{2}t^3 \right) dt \leq \frac{1}{x^3} \int_0^x t \log(t+1) dt \leq \frac{1}{x^3} \int_0^x t^2 dt$$

$$\text{したがって} \quad \frac{1}{3} - \frac{x}{8} \leq \frac{1}{x^3} \int_0^x t \log(t+1) dt \leq \frac{1}{3}$$

$$\lim_{x \rightarrow +0} \left(\frac{1}{3} - \frac{x}{8} \right) = \frac{1}{3} \text{ であるから, はさみうちの原理により}$$

$$\lim_{x \rightarrow +0} \frac{1}{x^3} \int_0^x t \log(t+1) dt = \frac{1}{3}$$

$$\boxed{5} \quad (1) \quad \overrightarrow{OC} = (1-p)\vec{a} + p\vec{b}$$

$$(2) \quad \overrightarrow{OC} = \vec{a} + p(\vec{b} - \vec{a}), \quad \overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{AB} &= \{\vec{a} + p(\vec{b} - \vec{a})\} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) \\ &= \vec{a} \cdot (\vec{b} - \vec{a}) + p(\vec{b} - \vec{a}) \cdot (\vec{b} - \vec{a}) \\ &= \vec{a} \cdot \vec{b} - |\vec{a}|^2 + p|\vec{b} - \vec{a}|^2 \end{aligned}$$

OC ⊥ AB より, $\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{AB} = 0$ であるから

$$\vec{a} \cdot \vec{b} - |\vec{a}|^2 + p|\vec{b} - \vec{a}|^2 = 0 \quad \text{よって} \quad p = \frac{|\vec{a}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a} - \vec{b}|^2}$$

$$(3) \quad \vec{a} = (t, 0), \quad \vec{b} = (1, 3) \text{ より, } \vec{a} - \vec{b} = (t-1, -3) \text{ であるから}$$

$$|\vec{a}|^2 = t^2, \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = t, \quad |\vec{a} - \vec{b}|^2 = (t-1)^2 + (-3)^2 = t^2 - 2t + 10$$

$p = \frac{1}{3}$ および上の諸式を (1) の結果に代入すると

$$\frac{1}{3} = \frac{t^2 - t}{t^2 - 2t + 10} \quad \text{整理すると} \quad 2t^2 - t - 10 = 0$$

$$\text{ゆえに} \quad (t+2)(2t-5) = 0 \quad \text{これを解いて} \quad t = -2, \frac{5}{2}$$

6 (1) $\frac{\beta}{\alpha} = 3 + i$, $\theta = \arg \frac{\beta}{\alpha}$ より

$$|3 + i| = \sqrt{3^2 + 1^2} = \sqrt{10}, \quad 3 + i = \sqrt{10} \left(\frac{3}{\sqrt{10}} + \frac{1}{\sqrt{10}}i \right)$$

ゆえに $\cos \theta = \frac{3}{\sqrt{10}}$, $\sin \theta = \frac{1}{\sqrt{10}}$ ($0^\circ < \theta < 90^\circ$) $\dots (*)$

また $\arg \frac{\beta^2}{\alpha^2} = \arg \left(\frac{\beta}{\alpha} \right)^2 = 2 \arg \frac{\beta}{\alpha} = 2\theta$

3点 $O(0)$, $P(\alpha^2)$, $Q(\beta^2)$ を頂点とする $\triangle POQ$ の面積 S は

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} |\alpha|^2 |\beta|^2 \sin 2\theta \\ &= |\alpha|^2 |\beta|^2 \sin \theta \cos \theta \\ &= 1^2 \cdot (\sqrt{10})^2 \times \frac{3}{\sqrt{10}} \times \frac{1}{\sqrt{10}} = 3 \end{aligned}$$

(2) (*) より

$$\cos 2\theta = \cos^2 \theta - \sin^2 \theta = \left(\frac{3}{\sqrt{10}} \right)^2 - \left(\frac{1}{\sqrt{10}} \right)^2 = \frac{4}{5}$$

$$\frac{1}{\sqrt{2}} < \frac{4}{5} < \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ より } \cos 45^\circ < \cos 2\theta < \cos 30^\circ$$

よって $30^\circ < 2\theta < 45^\circ$

(3) (2) の結果より $4\theta < 90^\circ < 6\theta$ であるから, $n = 5$ について

$$\begin{aligned} (3 + i)^5 &= (3 + i) \{(3 + i)^2\}^2 = (3 + i)(8 + 6i)^2 \\ &= (3 + i) \{2(4 + 3i)\}^2 \\ &= 4(3 + i)(7 + 24i) = 4(-3 + 79i) \end{aligned}$$

$\cos 5\theta < 0$ であるから, $n\theta > 90^\circ$ となる最小の自然数 n は

$$n = 5$$

$$\boxed{7} \quad (1) P(X=2) = \frac{{}_6C_2}{{}_8C_4} = \frac{3}{14}$$

(2) $2 \leq k \leq 6$ のとき

$$P(X=k) = \frac{(k-1) \cdot {}_{8-k}C_2}{{}_8C_4} = \frac{1}{140}(k-1)(8-k)(7-k)$$

したがって

X	2	3	4	5	6	合計
$P(X)$	$\frac{15}{70}$	$\frac{20}{70}$	$\frac{18}{70}$	$\frac{12}{70}$	$\frac{5}{70}$	1

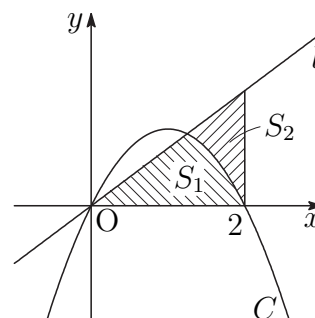
よって $k=3$

(3) (2) の結果から

$$E(X) = 2 \cdot \frac{15}{70} + 3 \cdot \frac{20}{70} + 4 \cdot \frac{18}{70} + 5 \cdot \frac{12}{70} + 6 \cdot \frac{5}{70} = \frac{252}{70} = \frac{18}{5}$$

$\boxed{8}$ (1) C と x 軸で囲まれた図形の面積は

$$\begin{aligned} \int_0^2 (2x - x^2) dx &= - \int_0^2 x(x-2) dx \\ &= \frac{1}{6}(2-0)^3 = \frac{4}{3} \end{aligned}$$



C と l の共有点の x 座標は

$$2x - x^2 = ax \quad \text{これを解いて} \quad x=0, 2-a$$

C と l で囲まれた図形の面積は

$$\begin{aligned} \int_0^{2-a} \{(2x - x^2) - ax\} dx &= - \int_0^{2-a} x(x-2+a) dx \\ &= \frac{1}{6}(2-a)^3 \end{aligned}$$

$$\text{したがって} \quad S_1 = \frac{4}{3} - \frac{1}{6}(2-a)^3 = \frac{1}{6}a^3 - a^2 + 2a$$

$$S_1 + S_2 = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot 2a \quad \text{より}$$

$$S_2 = 2a - S_1 = 2a - \left(\frac{1}{6}a^3 - a^2 + 2a \right) = -\frac{1}{6}a^3 + a^2$$

(2) (1) の結果から

$$S = S_1 - S_2 = \left(\frac{1}{6}a^3 - a^2 + 2a \right) - \left(-\frac{1}{6}a^3 + a^2 \right)$$

$$= \frac{1}{3}a^3 - 2a^2 + 2a$$

ゆえに $S' = \frac{dS}{da} = a^2 - 4a + 2$

よって, $a = 2 - \sqrt{2}$ のとき

S の最大値は $\frac{4}{3}(\sqrt{2} - 1)$

a	(0)	...	$2 - \sqrt{2}$...	2
S'		+	0	-	
S		↗	$\frac{4}{3}(\sqrt{2} - 1)$	↘	

9 (1) $p = \log_b c$ とすると, $c = b^p$ であるから, $a > 0, a \neq 1$ より

$$\log_a c = \log_a b^p$$

すなわち

$$\log_a c = p \log_a b$$

$b \neq 1$ より $\log_a b \neq 0$ であるから $p = \frac{\log_a c}{\log_a b}$ よって $\log_b c = \frac{\log_a c}{\log_a b}$

(2) $\log_{\frac{1}{2}}(4-x) = \frac{\log_2(4-x)}{\log_2 \frac{1}{2}} = -\log_2(4-x)$ であるから

与えられた不等式は $\log_2 x + \log_2(4-x) < 1 \dots \textcircled{1}$

真数は正であるから

$$x > 0 \quad \text{かつ} \quad 4-x > 0 \quad \text{すなわち} \quad 0 < x < 4 \quad \dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{1}$ から $\log_2 x(4-x) < \log_2 2$

底 2 は 1 より大きいから $x(4-x) < 2$ 整理すると $x^2 - 4x + 2 > 0$

$\textcircled{2}$ に注意して, これを解くと $0 < x < 2 - \sqrt{2}, 2 + \sqrt{2} < x < 4$

10 (1) 「 x が無理数であり, かつ y が無理数であるならば, $x + y$ が無理数であるか, または xy が無理数である。」

(2) 反例 $x = \sqrt{2}, y = -\sqrt{2}$

- 11 (1) $\triangle ABC$ および直線 EF について，メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AF}{FB} \cdot \frac{BD}{DC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{b}{6-b} \times \frac{7}{4} \times \frac{5-a}{a} = 1$$

整理すると $3ab + 24a - 35b = 0$

- (2) 4点 B, C, E, F が同一円周上にあるから，方べきの定理により

$$AB \cdot AF = AC \cdot AE \quad \text{ゆえに} \quad 6b = 5a$$

上式から， $b = \frac{5}{6}a$. これを (1) の結果に代入すると

$$3a \cdot \frac{5}{6}a + 24a - 35 \cdot \frac{5}{6}a = 0 \quad \text{整理すると} \quad 15a^2 - 31a = 0$$

$0 < a < 5$ に注意してこれを解くと $a = \frac{31}{15}$

- 12 (1) 左から 1 番目，上から $m - 1$ 番目の数は $(m - 1)^2$
したがって，左から m 番目，上から m 番目の数は

$$(m - 1)^2 + m = m^2 - m + 1$$

- (2) $90 = 9^2 + 9$ であるから 左から 10 番目，上から 9 番目

- (3) $1 \leq l \leq k + 1$ のとき

左から $k + 1$ 番目，上から l 番目

$k + 1 \leq l \leq 2k + 1$ のとき

左から $(2k + 1) - l + 1 = 2k - l + 2$ 番目，上から $(k + 1)$ 番目